

飼料用米との輪作、適期作業の工夫で地域の大豆多収生産を担う

農事組合法人 ビーンズ本楯

山形県酒田市



設立年月 H25年3月

構成農家 本楯地区6戸、オペレーター9名

基幹作物 大豆12ha(里のほほえみ)、水稻57ha(R3)

特徴 前身の組織から地域の大豆生産を担う組織として地域に貢献(約50haを受託)。地域で需要のある飼料用米との輪作により、長期連作を解消して多収を実現。

大豆生産状況

	面積 (ha)	単収 (kg/10a)	上位等級比率 (%)
R3	16.8	203	30
R2	21.5	152	84
R元	21.7	204	95

*面積には全作業受託面積を含む

*R3は収穫期の降雨等の影響で品質が低下

当該組織 県平均 全国平均

栽培上の特色

- 収穫適性のある「里のほほえみ」をいち早く導入し、全面切替えしたことで、高品質多収栽培を実現。
「里のほほえみ」の導入は、酒田市の他の大豆生産者にも波及。
- 水稻の作業と競合する播種前の耕起を適期に行うため、耕起作業を受託農家に再委託。また、播種班と除草剤散布班に分けることで、播種直後に除草剤を散布し、除草効果を高める体制を構築。
- 乾燥調製施設稼働前に、収穫した大豆をコンバイン袋に入れてパレットに平置きして一時保管する方式をとることで、早期に収穫作業を開始。



経営上の特色

- 当該地区で収穫作業を請け負う唯一の組織として、当該地区の大豆生産に欠かせない存在。
- 当該地区で需要のある飼料用米の低コスト多収栽培を目指す中で、大豆作付後の土壌窒素発現を利用した大豆-飼料用米の輪作体系が定着。肥料費の節減と大豆・飼料用米両方で多収を実現。
- 過去に団地の固定化で連作障害を生じたことから、自作地では水稻との輪作を導入。受託地においても、高収量圃場へ精算時に加算する制度を設けることで連作回避へ誘導し、現在は長期連作を解消。
- 周年農業や収益性向上のため、法人化後には、水稻、大豆のほか、啓翁桜やふきのとうにも取り組む。

販売・消費拡大への取組

- JAに出荷。「里のほほえみ」導入で品質・収量が向上し、安定生産につながっている。